

資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.1

R3地方創生推進交付金 小さな拠点を核とした市民協働による地域活性まちづくりプロジェクト

事業名	みんなのまちづくり推進事業				
担当課	地域振興部 まちづくり推進課				
予算額	1,579千円				
1 事業の背景・目的					
平成30年4月に施行した福知山市自治基本条例の適正な運営を確保し、市民主体のまちづくりが活性化されるよう、有識者及び市民代表による提案の仕組みを構築する。					
2 事業の内容					
・自治基本条例推進委員会を設置し、まちづくりへの市民参画の状況把握や条例の適切な運用について検証・検討する。					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	報酬等	149,240	自治基本条例推進委員会委員報酬等		
	決算額計	149,240	交付金充当額	74,620	
4 事業の成果					
・行政施策における市民参画について確認するとともに、持続可能な住民自治を推進するための提案をいただくため、福知山市自治基本条例推進委員会を開催した。					
5 課題					
・コロナ禍もあり、講演会などが実施できない中、条例について行政職員及び市民ともに研修などで考える場が減少している。情報共有と市民協働について、改めて取組みを検討していく。					
6 R4年度以降の 予定					
「まちづくり構想 福知山」が令和4年4月より施行されたことを踏まえ、自治基本条例推進委員会において、「市民から市民への21の提案」の実現に向けて、重点的な取り組みを行い、市民が主体的に取り組むまちづくりを推進していく。					
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	地域協議会数	団体	3/7	4/7	4/7
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	自治基本条例推進委員会	回	2/2	1/2	2/2
担当課による評価					
B(相当程度効果があった)					
評価をつけた理由					
・委員会を年2回開催し、庁内調査の結果も踏まえて議論が行われることで、市民協働の基本となる市民との情報共有のあり方について取組みの方針を定めることができた。					

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.2

**R3地方創生推進交付金 小さな拠点を核とした市民協働による地域活性まちづくりプロジェクト**

事業名	有償運送運行事業
担当課	建設交通部 都市・交通課
予算額	80,024千円

**1 事業の背景・目的**

人口減少・過疎化やモータリゼーションの過度な進行等の理由により公共交通が縮小局面にある中において、市内の交通空白地で地域住民が主体となって有償運送を実施し、地域住民の生活移動手段の確保する。

**2 事業の内容**

地域組織が主体となって運行する交通空白地有償運送の運営に係る費用を補助金の交付により支援する。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
		負担金補助金及び交付金	5,847,000	交通空白地域移送サービス事業費補助金
	決算額計	5,847,000	交付金充当額	2,923,500

**4 事業の成果**

三和、大江地域において、それぞれ地域組織が主体となって運行する「みわひまわりライド」、「鬼タク」の経費について補助を行い、過疎化・高齢化がすすむ地域住民にとって、需要に応じた移動手段の効果的な供給ができた。

**5 課題**

市内においても、高齢化・過疎化の進展が著しい地域において、持続可能な交通手段とするためには、運行を担う人材の継続的な確保・新陳代謝が課題となる。

**6 R4年度以降の  
予定**

先行する三和地域、大江地域の運行実績結果を参照しながら、夜久野地域ほか他の交通空白地域において、有償運送を含む新たな交通モデルの構築の検討を行う。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
		交通空白地有償運送利用者数	人	2,892/3,000	1,463/3,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
		制度利用団体数(空白地)	団体	2/2	2/2

**担当課による評価** A(非常に効果があった)

**評価をつけた理由**

みわひまわりライドにおいては、コロナ禍の影響により、外出機会が減少し、輸送実績は4割程度減少(R1/969人、R3/635人)しているが、会員数は81名(R1)から115名(R3)と増加し、利用率も53%から73%も上昇していることから、地域住民の生活移動手段として定着してきている。  
鬼タクにおいては、R3.7に運行を開始し、9か月間で270人の生活利用による輸送実績に加え、38人の観光利用があり、地域振興にも寄与した。

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.3

**R3地方創生推進交付金 「海の京都連携都市圏」形成推進事業**

事業名	海の京都DMO事業
担当課	産業政策部 産業観光課
予算額	11,116千円

**1 事業の背景・目的**

京都府北部5市2町を「海の京都」と位置づけ、全国有数の競争力ある観光圏となることを目的に一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社を組織し、国内・インバウンド対策を実施。

**2 事業の内容**

一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社（海の京都DMO）に対する自治体負担金。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	負担金補助金及び交付金	7,972,000	海の京都DMO事業分担金	
	決算額計	7,972,000	交付金充当額	3,986,000

**4 事業の成果**

京都府北部全体で観光による地域づくり、地域活性化のための施策を展開  
[R3主要事業]①情報発信プロモーション②地域DX推進事業③地域コンテンツ造成支援④特産品ブランド化、販売促進事業

**5 課題**

新型コロナウイルスにより観光産業は大きな影響を受けたため、目標とするツアー取扱額や飲食宿泊等キャンペーン取扱額には達しなかった。

**6 R4年度以降の予定**

令和3年度に実施したマーケティング調査等による顧客情報を活用し、海の京都エリアへの誘客や消費拡大を図っていく

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	観光入込客数	人	1,116,577/942,000	892,414/942,000	594,167/942,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	特産品販売額	万円	906/2,000	2,142/2,000	2,227/2,000

**担当課による評価**

C(効果があった)

**評価をつけた理由**

情報発信及びコロナ禍で変動した観光ニーズを把握するためのマーケティング調査を行い、アフターコロナに向けた基盤整備を行うことができた。

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.4

**R3地方創生推進交付金 「海の京都連携都市圏」形成推進事業**

事業名	ふるさと就職おうえん事業（合同企業説明会・インターンシップ説明会・副業兼業人材マッチング）
担当課	産業政策部 産業観光課
予算額	3,411千円

**1 事業の背景・目的**

高校生をはじめとする若者の地元企業への理解と関心を高め、地元への定着と地元企業の人材確保につなげるとともに、福知山地域の事業所と求職者との出会いの場を創出することで雇用の安定を図り、持続可能な地域雇用を実現をめざす。

**2 事業の内容**

- ・合同就職説明会開催による市内企業と一般求職者・UIJターン希望者等とのマッチング機会創出
- ・高校生ワークショップの開催による若者が地元企業を知る機会の提供
- ・北京都ジョブパークとの共催による各種セミナーやカウンセリングの実施、スキルアップ支援
- ・その他、企業ガイド発行、公正採用啓発、人権ふれあいセンターでのパソコン講座、就職支援セミナー、個別就職相談会等の開催

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
		負担金補助金及び交付金	1,094,686	ふるさと就職おうえん事業負担金
	決算額計	1,094,686	交付金充当額	547,343

**4 事業の成果**

合同就職説明会等には延べ322社、278名の参加があり、うち18名の就職内定につながった。高校生ワークショップには78名の高校生が参加し、市内の若者へ魅力ある地元企業を知るきっかけを提供した。

**5 課題**

合同就職説明会においては対面での実施を希望する企業・参加者が一方で、コロナ禍の影響もあり全体的に参加者の減少がみられる。対面方式は新型コロナウイルス感染状況により実施中止となる可能性があるため、引き続きオンライン開催についても実施方法を模索していく必要がある。

**6 R4年度以降の予定**

合同就職説明会について、新型コロナウイルス感染症の拡大状況や地元企業・参加者のニーズに応じてオンラインと対面のハイブリッド形式で開催し、引き続き両者のマッチング機会を創出していく。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
		就職内定者数	人	36/40	21/40
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
		就職面接会参加企業数	社	429/160	235/160

**担当課による評価**

B(相当程度効果があった)

**評価をつけた理由**

オンライン形式と対面式を両立しながら合同就職説明会を開催することで、引き続き地元企業と求職者のマッチング機会を創出することができ、内定にもつなげることができたため効果があったと評価する。

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.5

**R3地方創生推進交付金 「海の京都連携都市圏」形成推進事業**

事業名	移住・定住促進事業
担当課	地域振興部 まちづくり推進課
予算額	411,524千円

**1 事業の背景・目的**

京都府北部7市町で構成する「京都府北部地域連携都市圏」を、移住や定住にふさわしい圏域として「地域ブランド」を確立することにより、必要とする人材の確保及び地域の振興につなげることを目的とする。

**2 事業の内容**

(1) 京都府北部地域移住ネットワークづくり（民間プレーヤーと行政が協力して移住につながるプロジェクトを企画・運営）  
 (2) 地域Webサイト「たんたんターン」改修等  
 (3) 高校生“みらい”会議（ふるさとへの関心や愛着を醸成し、将来的なUターンにつなげるためのワークショップ）  
 (4) 市町担当者連携会議（事業の進捗確認や今後の方向性について検討する会議）

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	負担金補助金及び交付金	1,023,464	移住・定住促進事業負担金	
	決算額計	1,023,464	交付金充当額	511,732

**4 事業の成果**

(1) 民間主導で3つのプロジェクト（①現物払い兼業、②移住×就職イベント、③市民ライター養成）を実施。  
 (2) 求人検索機能の追加などにより移住者目線のサイトにリニューアルした。  
 (3) 圏域内の公立市立合わせて12校24名の高校生が参加して市町を超えて交流を行った。  
 (4) 事業の進捗確認や次年度に向けての協議を行った。

**5 課題**

コロナ禍を受けて全国的に地方移住への関心が高まる中、スケールメリットを活かして、ひとつの圏域として効果的な施策を打ち出していく必要がある。  
 また、行政だけでなく民間の力も借りて移住につながる仕組みや受入体制を一層整備していく必要がある。

**6 R4年度以降の予定**

本圏域への移住につながるようなプロジェクトを民間が主体となって行政と協働で進めていくと同時に、ひとつの圏域としてのプロモーションや情報発信を引き続き行う。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	制度利用による定住者数	人	31/20	37/20	71/20
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	新規移住希望者名簿登録数	件	96/100	274/100	384/100

**担当課による評価**

B(相当程度効果があった)

**評価をつけた理由**

「京都」というブランドの中でも自然豊かな北部を選択する都市部からの移住希望者は多く、本市でも移住者（空き家情報バンク制度を通じての利用者数）は増加しており（H29:7名、H30:34名、R1:31名、R2:37名、R3:71名）相当程度効果があったと評価する。

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.6

R3地方創生推進交付金 「海の京都連携都市圏」形成推進事業					
事業名	広域連携推進事業				
担当課	市長公室 経営戦略課				
予算額	2,291千円				
1 事業の背景・目的					
近隣市町や京都府、その他府県等との連携により、広域課題等に対し効率的、効果的な施策を展開し、中核市並みのサービスを連携都市圏域内に展開する。					
2 事業の内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府北部地域連携都市圏（構成市町：福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町）において、総会、連携深化PT、幹事会、各部会等を開催し、連携ビジョンやアクションプランに基づき地方創生交付金を活用しながら各課が実施する連携事業を推進した。</li> <li>・第2期連携ビジョンに基づき、幹事である教育部会において地方創生推進交付金を活用しながら各種事業を推進する。</li> </ul>					
3 決算額及び交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金補助金及び交付金	604,257	広域連携推進事業負担金		
	決算額計	604,257	交付金充当額	302,128	
4 事業の成果	<p>(主な事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域で共通する地域課題等の解決を図るため、本市が幹事を担う教育部会において、地域住民と連携した取組の推進に向けて福知山公立大学と共同で生涯学習講座を開催した。</li> <li>(1)第1回(11月28日(日))テーマ「海の京都におけるe-bikeツーリズムの未来」</li> <li>(2)第2回(2月12日(土))テーマ「子どもをSNS性被害・性暴力から守る」 (北部7市町の男女共同参画部門との共催)</li> <li>(3)第3回(2月20日(日))テーマ「京都府北部から考えるデジタル田園都市の未来」</li> <li>・「圏域内高等教育機関に広域連携に関する実態調査」を行い卒業生の出口対策や各機関での課題等を調査した。</li> </ul>				
5 課題	<p>連携推進に向けて事業を展開しているが、圏域内の住民の生活機能や利便性の向上が実感できるような連携の取組を行い、住民にも十分理解を得るなかで連携事業を展開していく必要がある。</p> <p>第2期ビジョンに掲げる産官学連携コンソーシアムの構築に向けて、地域課題の抽出等を進める必要がある。</p>				
6 R4年度以降の予定	<p>第2期ビジョンの実現に向けて、各部会で取り組むアクションプランの推進を図る。</p> <p>教育部会においては、高等教育機関に広域連携に関する実態調査の結果を踏まえ圏域の高等教育機関の出口対策についてや、福知山公立大学と連携した圏域内の職員を対象とした自治体DXに係る研修会を実施する。また、産官学連携のコンソーシアムについて、部会で先進事例の視察を行い調査研究を行う。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	広域連携による事業数	事業	8/8	10/10	10/10
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	広域連携に関する各市理事者による協議	回	5/5	6/5	3/5
担当課による評価	B(相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	生涯学習講座については、新型コロナウイルス感染症拡大により開催が困難な中で、引き続きオンラインで開催し地域住民の学びの機会を提供できた。その他の連携事業についても予定どおり実施することができた。				

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.7

**R3地方創生推進交付金 「海の京都連携都市圏」形成推進事業**

事業名	「知の拠点」推進事業
担当課	市長公室 大学政策課
予算額	437,346千円

**1 事業の背景・目的**

北近畿地域においては、少子高齢化や人口減少が進み、若者の都市部への流出や労働力不足、都市の過疎化、地域経済の衰退、自治機能の低下など、共通する地域課題が顕著となっている。  
少子高齢化に伴う労働力不足や過疎化に対して、地域経営学部及び情報学部の2学部体制の福知山公立大学における文理連携により北近畿での「知の拠点」として取り組みを進め、ICTやAI等の情報技術や地域経営学の知見を活用・連携した地域への貢献を図ることを目的としている。

**2 事業の内容**

地域において、ICTやAI等の技術を活用するための基盤となる「数理・データサイエンス教育拠点」を設立する。  
また、「国際センター」を設立し、地域課題について海外の大学や研究機関との学術交流事業を展開することにより研究の質を高めるとともに、日本の地域課題解決にむけた知見を海外の研究者と共有し、国内外に広く発信する。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	負担金補助金及び交付金	7,200,000	「知の拠点」推進事業費負担金補助金及び交付金	
	決算額計	7,200,000	交付金充当額	3,600,000

**4 事業の成果**  
令和3年7月に数理・データサイエンス教育研究拠点を設置し、令和4年度のセンター設立に向けた研究体制を整えた。また、令和3年9月に国際センターを設立し、学生と海外の学生が互いに学び合い地域の国際化に貢献する環境づくりを進めた。

**5 課題**  
海外からの留学生の受け入れに向けた制度づくりが必要。

**6 R4年度以降の  
予定**  
産官学連携を推進し、地域の産業イノベーションの創出。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	福知山公立大学の社会人向け講座受講者数	人	1,253/400	607/500	1,191/500
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	地域と大学の連携取組数(包括協定締結数)	件	15/10	15/10	15/10

**担当課による評価**  
A(非常に効果があった)

**評価をつけた理由**  
地域協働型教育の理念のもと、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に採択されるなど、特色あるカリキュラムを提供し地域社会の課題解決が行える人材育成を実現している。

R3地方創生推進交付金 「海の京都連携都市圏」形成推進事業					
事業名	スマートシティ推進事業（有害鳥獣捕獲）				
担当課	産業政策部 農林業振興課				
予算額	13,623千円				
1 事業の背景・目的					
<p>福知山市では年間6,000頭近い有害鳥獣を捕獲しているものの、農作物被害額は高止まりしている状況であり、今後、より一層過疎化・高齢化が進むと考えられる中山間地域においては、地域住民・行政・駆除従事者が連携協力して有害鳥獣対策を推進することが求められる。ICT機器を有効活用して地域住民が主体となった有害鳥獣対策に取り組む体制の構築を図る。</p>					
2 事業の内容					
<p>有害鳥獣対策に関する先進的知見を持つ兵庫県立大学の協力を得て、対策に意欲的な地域から選定した獣害対策モデル地区において、ICT機器を活用して地域・市・大学が協働して対策に取り組み、地域主体の有害鳥獣対策の体制構築を図る。</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	委託料等	13,603,911	ICTを活用した鳥獣の科学的な管理手法検討研究委託業務等		
	決算額計	13,603,911	交付金充当額	6,801,955	
4 事業の成果	<p>○遠隔監視・遠隔捕獲が可能なICT囲いワナや赤外線センサーカメラを活用することで獣の動きを可視化し、地域住民を主体とした積極的な捕獲活動が実施できた。 ○防除柵の点検・補修を徹底し、農作物被害の軽減を達成することができた。</p>				
5 課題	<p>○地域における有害鳥獣対策の体制を長期間維持していくために、地域におけるリーダーとなるような人材の育成や、地域の獣害対策へのモチベーションを維持し続ける仕組みについて検討していく必要がある。</p>				
6 R4年度以降の 予定	<p>○現在、獣害対策モデル地区は夜久野町と三和町に1か所ずつ設定しているが、大江町にも新たなモデル地区を設定して旧3町のそれぞれにモデル地区を設定する。 ○モデル地区で得られたデータやノウハウを有効活用し、市内他地域においても地域主体の獣害対策を実施するため、出前講座を実施する。 ○R4以降の成果実績（アウトカム）についてはモデル地区以外の市内他地域への水平展開を図るため、「地域主体の獣害対策」取組み地区数（単位：地区）とする。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	モデル地区におけるICT機器等を活用した捕獲実績	頭	0/0	0/0	26/0
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	モデル地区獣害対策集落指導	回	0/0	2/0	13/12
担当課による評価	B(相当程度効果があつた)				
評価をつけた理由	<p>獣害対策の効果が数字に表れるには数年かかることが一般的である中で、モデル地区においては捕獲数(0頭→26頭)、被害状況(複数個所で全滅被害→農業共済の対象となる被害ゼロ)ともに地域住民が実感できるレベルで効果が出ている地区が得られた。</p>				



**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.9

**R3地方創生推進交付金 「海の京都連携都市圏」形成推進事業**

事業名	シニアワークカレッジ事業
担当課	市長公室 大学政策課
予算額	1,700千円

**1 事業の背景・目的**

事業所の労働力不足解消や生産性向上のため、DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入や情報人材の確保が重要になっている。  
 福知山公立大学の知見を活用しシニア世代を中心に社会人に向けた実社会で応用できる情報スキルを基礎から学べる教育プログラムを開講し、地域のデジタル化を牽引する人材育成を図る。

**2 事業の内容**

シニア世代を中心にITの知識や技術を身につけるための情報教育プログラムを福知山公立大学に委託して開講する。  
 全3コース  
 ①データサイエンスコース ②DX人材育成コース ③AI人材育成コース

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	委託料等	1,540,000	シニアワークカレッジ運営事業支援業務委託料等	
	決算額計	1,540,000	交付金充当額	770,000

**4 事業の成果**  
 3コース合計28人が受講し、IT技術や知識を身につけた。  
 また、講義を受講した事業所からの共同研究に結びついた案件も出ている。

**5 課題**  
 受講者の年齢層が低いことから、シニア世代の受講者を増やす工夫が必要。

**6 R4年度以降の予定**  
 令和3年度3コースを開講したが、令和4年度は5コースに拡張した。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	受講者のキャリア開拓件数	件	0/0	0/0	0/1
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	講座受講数	人	0/0	0/0	28/30

**担当課による評価** A(非常に効果があった)

**評価をつけた理由** 受講者に対して行ったアンケート調査からも好評だった。

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.10

**R3地方創生推進交付金 福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業**

事業名	「知の拠点」推進事業 (2)
担当課	市長公室 大学政策課
予算額	437,346千円

**1 事業の背景・目的**

北近畿地域においては、少子高齢化や人口減少が進み、若者の都市部への流出や労働力不足、都市の過疎化、地域経済の衰退、自治機能の低下など、共通する地域課題が顕著となっている。  
少子高齢化に伴う労働力不足や過疎化に対して、地域経営学部及び情報学部の2学部体制の福知山公立大学における文理連携により北近畿での「知の拠点」として取り組みを進め、ICTやAI等の情報技術や地域経営学の知見を活用・連携した地域への貢献を図ることを目的としている。

**2 事業の内容**

北近畿地域の将来を担い活躍できる人材を育成し、圏域内の人材交流を促進するために北近畿地域連携機構の機能強化を行う。  
また、地域防災研究センターを設置し、北近畿地域における地域防災に関する研究拠点として、学術的な観点から地域防災力強化に取り組む。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	負担金補助金及び交付金	386,572	「知の拠点」推進事業	
	役務費	91,704		
	使用料	130,021		
	負担金補助及び交付金	13,860,000		
	需用費	219,120		
決算額計		14,687,417	交付金充当額	7,343,708

**4 事業の成果**  
地域防災研究センターでは、MITとの共同研究や厚生労働科学特別研究への参画、自治体職員への防災研修を行うなど、学外との連携を積極的に行った。

**5 課題**  
北近畿地域連携機構を中心とした産学官連携の取組の強化。

**6 R4年度以降の  
予定**  
産官学連携コンソーシアムの構築。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	福知山公立大学の社会 人向け講座受講者数	人	1,253/400	607/500	1,191/500
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	地域と大学の連携取組 数(包括協定締結数)	件	15/10	15/10	15/10

**担当課による評価**  
A(非常に効果があった)

**評価をつけた理由**  
地域防災研究センターでは、MIT・福知山市と3者合同で災害対応リスクマップ開発のプロジェクトを立ち上げ、社会の大きな注目を浴びるなど学外との連携を積極的に行った。

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.11

**R3地方創生推進交付金 福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業**

事業名	福知山市産業支援事業（産業支援センター、パワーオンネット、販路開拓支援）
担当課	産業政策部 産業観光課
予算額	30,411千円

**1 事業の背景・目的**

経営上の課題を抱える中小企業等のあらゆる問題の解決と売上向上に向けたビジネスの挑戦を事業者の目線に立って一緒になってチャレンジするための拠点として、福知山産業支援センターを運営し、これを核とした地域の活性化を図る。

また、事業者が市内で開発・生産された自社商品及びサービスを展示会等のイベントに出展する際の経費の一部補助することで、事業者の販路開拓を支援し産業の振興を図る。

**2 事業の内容**

相談業務を中心とした支援を行う福知山産業支援センター「ドッコイセ！biz」においてあらゆる業種の事業所の相談に対応する。福知山産業支援センター「ドッコイセ！biz」の運営業務については、一般社団法人福知山産業支援機構へ業務委託をする。

市内の小規模企業者が、市内において製造、加工、開発された製品及びサービス等を不特定多数の者に周知することを目的とした展示会等への出展にかかる経費の一部を補助金として交付する。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	委託料等	25,409,608	産業支援センター運営業務委託料等	
	決算額計	25,409,608	交付金充当額	12,704,804

**4 事業の成果**  
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により予定していた講演会やセミナーについては開催を中止したが、年間を通じて954件の相談に対応し、事業者の売上アップや販路開拓につながった事業者は126者であった。

**5 課題**  
相談者のうち94%がリピート利用者であり、新規相談者の獲得が課題となっている。  
コロナ禍で対面での展示会の開催が難しく、販路開拓支援事業の申請が減少した。

**6 R4年度以降の  
予定**  
ホームページやSNS等で積極的に情報を発信し、センターの認知度を向上させることで新規相談者を獲得することで、成果事例や事業者間のマッチング事例を増やしていく。販路開拓支援ではオンライン展示会への出展及びECサイトの構築にかかる経費も対象とする。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	販路拡大や売上up等につながった件数	人	155/30	157/30	126/100
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	相談件数	回	82/30	82/30	80/60

**担当課による評価** B(相当程度効果があった)

**評価をつけた理由**  
新型コロナウイルス感染症の影響により、売上アップや販路拡大につながった事業者数は減少したものの、ネット販売サイトの構築等に関するコロナ禍に伴う相談案件が増加し、新たな相談層の獲得につながった。

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.12

**R3地方創生推進交付金 福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業**

事業名	福知山PR戦略総合推進事業				
担当課	市長公室 秘書広報課				
予算額	37,335千円				
<b>1 事業の背景・目的</b>					
<p>明智光秀主人公の大河ドラマ放送に伴う令和2年度までの重点テーマ「明智光秀」を深化させる「まちづくりの挑戦心＝光秀マインド」をコンセプトにしたPR活動（光秀マインドプロジェクト）と、「鬼」「市役所・市全体のPR力向上」という新たなテーマとの三本柱により、福知山市の地域ブランドを高めて福知山ファンを増やし、関係人口（多様な形で関わる市外の人々）・交流人口の拡大と、市民のシビックプライドの醸成を図る。</p>					
<b>2 事業の内容</b>					
<p>◆明智光秀 ○光秀マインドVol.2 福知山城チャレンジ ○光秀マインドVol.3 光秀そっくりさん募集、福知山の恋の準備 ○福知山城マインクラフト ○光秀ピクトグラム ○謀反ハガキふるさと納税追加 など ◆鬼 ○福知山市の資産「酒呑童子絵巻」を基にした鬼アニメ「転生したら鬼退治を命じられました」制作 ○『鬼滅の刃』宇髄天元役などで活躍する声優・小西克幸さんの「鬼ガイド」制作 ○クラウドファンディング型ふるさと納税 ○鬼鬼祭 ○グッズ開発 など ◆市役所・市全体 研修、プレスリリース添削、講演など</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	委託料等	25,000,000	PR戦略総合推進業務委託等		
	決算額計	25,000,000	交付金充当額	12,500,000	
4 事業の成果	<p>○R2～3年度の本事業が、11アワードを受賞。全国広報コンクール2021 広報企画部門「特選・総務大臣賞」(全国1位)、第1回シティプロモーションアワード「金賞」など。○鬼や光秀のPR活動が、ネットを活用した発信の好例として、NHK京都・関西での特集や朝日新聞京都版の回顧で紹介される。○メディア掲載件数800件以上(前年度2倍)。○福知山ファンクラブ会員は1年で200人増加(3011人→3208人)。Twitter、Instagram、YouTubeフォロワー数も順調に増加。</p>				
5 課題	<p>大河ドラマや鬼の社会現象が落ち着いていく中で、令和2年度まで行っていた「全国に発信してその評価を市内に還流させる」手法の難易度が高まっている。</p>				
6 R4年度以降の 予定	<p>R3年度同様、「明智光秀（まちづくりの挑戦心＝光秀マインド）」「鬼」「市役所・市全体のPR力向上」という三本柱をテーマに事業を行う。具体的には、まちに変化を起こす市民を特集する「福知山の恋」プロジェクトなどを実施し、市内からプロジェクトの協力者を増やし、その輪を同心円状に広げていきたい。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	「明智光秀のまち福知山」都市圏の認知度(アンケート調査)	%	34.7/43	50.1/45	31/45
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	プレスリリース配信	件	22/10	42/10	40/18
担当課による評価	B(相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	<p>明智光秀主人公の大河ドラマ終了(R3.2)に伴い大型露出が減り、明智光秀に特化したアウトカムは数値が減少したものの(“見聞きした気がする”というライト層が減少)、リソースを分散させたことにより、ほかの様々な数値にて成果が現れている。</p>				

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.13

R3地方創生推進交付金 福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業					
事業名	オレンジのまちづくり推進事業				
担当課	福祉保健部 社会福祉課				
予算額	760千円				
1 事業の背景・目的					
<p>「認知症サポーターのオレンジリング（地域包括ケア推進課）」、「児童虐待防止のオレンジリボン（子ども政策室）」、「あいサポーターバッジ（障害者福祉課）」の3事業を一体とした福祉のまちづくりを進め、共生社会の実現を目指す。</p>					
2 事業の内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症、あいサポート、虐待防止に関する映画上映等により、市民へのオレンジのまちづくりを推進する。</li> <li>・ポスターを作成する。</li> <li>・先進地視察や講演会等へ参加する。</li> </ul>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	需要費	56,000	オレンジのまちづくり推進チラシ等作成等		
	決算額計	56,000	交付金充当額	28,000	
4 事業の成果					
<p>認知症サポーター養成講座等でチラシを配布すること、長田野工業団地・アネックス京都三和の工場長会で説明することでオレンジのまちづくりを周知した。また、図書館中央館での啓発展示は、児童の夏休み期間と合わせることで効率的な啓発・事業周知につなげた。</p>					
5 課題					
<p>3つのオレンジをどのようにして市民に浸透させていくか、関係課（室）と一緒に検討しなければならない。</p>					
6 R4年度以降の 予定					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の企画展示は今後も継続する。</li> <li>・地域包括ケア推進課・障害者福祉課・子ども政策室と連携して進める。</li> </ul>					
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	フォーラムアンケート (オレンジ運動を「参加したい」「広めたい」と回答された割合)	%	39/25	—/50	—/50
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	オレンジフォーラム参加者数	人	253/400	—/300	—/300
担当課による評価					
C(効果があった)					
評価をつけた理由					
<p>コロナ禍で予定していたイベントは開催できなかったが、長田野企業等に事業周知を図ることができたため。</p>					

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.14

R3地方創生推進交付金 あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らしを」～みんなが主役の地域振興事業～

事業名	森の京都DMO事業
担当課	産業政策部 産業観光課
予算額	8,915千円

**1 事業の背景・目的**

京都府中部4市1町を「森の京都」と位置づけ、全国有数の競争力ある観光圏となることを目的に一般社団法人森の京都地域振興社を組織し、国内・インバウンド対策を実施。

**2 事業の内容**

一般社団法人森の京都地域振興社（森の京都DMO）に対する自治体負担金。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	負担金補助金及び交付金	6,432,000	森の京都DMO事業分担金	
	決算額計	6,432,000	交付金充当額	3,216,000

**4 事業の成果**

京都府中部全体で観光による地域づくり、地域活性化のための施策を展開  
 [R3 主要事業]①マーケティング調査②着地型旅行商品、滞在型コンテンツの開発促進  
 ③カーシェアリング推進④プロモーション

**5 課題**

新型コロナウイルスにより観光産業は大きな影響を受けたため、目標とするツアー商品の集客数には及ばなかったが、御城印のブームを受けて物販販売額が目標を大きく上回った。

**6 R4年度以降の予定**

令和3年度に実施したマーケティング調査等による顧客情報を活用し、森の京都エリアへの誘客や消費拡大に努めていく。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	観光入込客数	人	1,116,577/942,000	892,414/942,000	594,167/942,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	観光プロモーション等	回	3/8	2/8	5/3

**担当課による評価** B(相当程度効果があった)

**評価をつけた理由** 御城印のブームを受けて物販販売額が目標を大きく上回ったほか、CRMを活用して情報発信が可能な顧客情報を獲得できた。

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.15

R3地方創生推進交付金 あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らしを」～みんなが主役の地域振興事業～

事業名	ふくちやまサードプレイスツーリズム事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	5,000千円				
<b>1 事業の背景・目的</b>					
<p>アフター大河及びウィズコロナの観光のあり方を見据え、国内外のFITをターゲットとし、福知山の多様な地域資源を体験型観光コンテンツとして磨き上げ、現地ツアーの実施、アクティビティを動画で可視化し、これらを販売するポータルサイト「K I T A I R O」を構築することで、地域経済を交流人口拡大により活性化させ持続可能な観光振興を目指す。</p>					
<b>2 事業の内容</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルサイト「K I T A I R O」での体験型コンテンツの情報発信及び販売業務</li> <li>地域資源の磨き上げによる体験型コンテンツの造成</li> <li>体験型コンテンツ紹介のための動画撮影業務</li> </ul>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	委託料	4,494,600	ふくちやまサードプレイスツーリズム事業費委託料		
	決算額計	4,494,600	交付金充当額	2,247,300	
4 事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>酒蔵見学・試飲、川エビ釣り、漆掻き文化体験など、福知山でしか体験することができない観光コンテンツの発掘を行い、11コンテンツを商品化した。</li> <li>商品化したコンテンツは全てプロモーション動画を撮影し、ポータルサイト「北色」でコンテンツの魅力発信を行いながら販売した。</li> </ul>				
5 課題	<p>新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が長期間発令され、不要不急の外出自粛が求められていたことから、コンテンツのプロモーションが十分に実施できなかった。</p>				
6 R4年度以降の 予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンテンツの発掘、商品化を引き続き進める一方、販売額の増加につながるためのプロモーションに比重を置いた事業を展開していく。</li> <li>体験型コンテンツは、本市の新たな観光資源であるため、海の京都DMO、森の京都DMOとも連携しながら観光誘客を図っていく。</li> </ul>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	観光消費額(販売額)	千円	0/0	0/0	1,137/5,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	体験型コンテンツ数	回	0/0	0/0	11/10
担当課による評価	B(相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな旅行ニーズに対応するための基盤を構築することができた。</li> <li>「京都 福知山ジビエ・オンラインツアー事業」で催行したオンラインツアーを移動自粛要請解除後に現地でも体験できるようコンテンツ化を行うなど、他事業との連携も図れた。</li> </ul>				

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.16

R3地方創生推進交付金 あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らしを」～みんなが主役の地域振興事業～

事業名	移住・定住促進事業
担当課	地域振興部 まちづくり推進課
予算額	41,142千円

**1 事業の背景・目的**

コロナ禍を契機に全国的に地方移住への関心が高まる中、本市への移住希望者は増加している。オンラインと現地での支援を臨機応変に組み合わせて、多様化する移住希望者のニーズに合った支援を行い、関係人口や将来的な移住・定住者の増加と担い手による地域振興を図る。

**2 事業の内容**

移住希望者・移住者に関する支援及び情報発信を行う。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	使用料及び賃借料	1,056,000	SMOUT使用料及び賃借料	
	決算額計	1,056,000	交付金充当額	528,000

**4 事業の成果**  
移住希望者に向けてSMOUTやSNSを活用してウェブでの情報発信を強化した結果、空き家情報バンク制度を通じての移住者数・新規移住希望者数ともに過去最多を更新した。  
移住者数：27世帯71人 新規移住希望者数：333世帯645人(市内在住51世帯96人を除く。)

**5 課題**  
本市で増加傾向にある30～40代の移住者のさらなる獲得に向けて、ターゲットを明確にしたプロモーションやニーズに沿った情報発信を行う必要がある。また、コロナ禍以降定着しつつあるリモートワークなどの新しい働き方を実践している層へのアプローチも課題となっている。

**6 R4年度以降の  
予定**  
ターゲットを明確にした上で、ウェブ媒体を中心とした継続した情報発信を行う。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	制度利用による定住者数	人	31/20	37/20	71/20
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	新規移住希望者名簿登録数	件	90/100	274/100	384/100

**担当課による評価** B(相当程度効果があった)

**評価をつけた理由**  
本市の移住者（空き家情報バンク制度を通じての利用者数）は増加しており（H29:7名、H30:34名、R1:31名、R2:37名、R3:71名）相当程度効果があったと評価する。



**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.17

R3地方創生推進交付金 あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らしを」～みんなが主役の地域振興事業～

事業名	みんなのまちづくり推進事業
担当課	地域振興部 まちづくり推進課
予算額	1,579千円

1 事業の背景・目的

若者のふるさとへの愛着を醸成し、地域で活動する人材を育成することを目的として、若者がまちの未来について語り合い、地域に係る具体的な活動をする場を提供する。

2 事業の内容

高校生と大学生が自ら地域に係る事業を企画・実践していく「未来ラボ事業」について、福知山公立大学に業務委託を行い、学生が主体となってまちづくりの取組みを進める。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	委託料	1,200,000	福知山市若者まちづくり未来ラボ事業運営業務委託料	
	決算額計	1,200,000	交付金充当額	600,000

4 事業の成果

- ・「未来ラボ事業」において、4組が活動プロジェクトを実施した。地域資源のPRや大河ドラマ「麒麟が来る」に関連した地域を盛り上げる取組みなど、学生が地域に向き合うことでふるさとへの思いや地域に関わることへの学びを深めることに繋がった。
- ・「わかもの会議」を実施し、地域の大学生実業家などの講演を通じて、若者と地域が繋がるまちづくりについて学ぶ場を提供し、地域活性化への意識醸成に繋がった。

5 課題

コロナ禍での実施でもあり、活動グループが集うことが難しく、非常に厳しいスケジュールの中で各事業が進められることとなった。また、学生の対話の場で生まれたアイデアを全て実現できず、伴走支援ないしはサポートの仕組みについて検討が必要である。

6 R4年度以降の予定

令和4年度については、市の直営事業とし、大学に協力いただくことで実施していく。それぞれの得意分野にて役割を分担し、より効果的に事業を実施していく。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	地域協議会数	団体	3/7	4/7	4/7
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	自治基本条例推進委員会	回	2/2	1/2	2/2

担当課による評価 B(相当程度効果があった)

評価をつけた理由

- ・福知山市内にある複数の高校から参加があり、また他府県の高校生並びに大学生ともつながりができ、関係人口の創出につながった。
- ・学生が実行委員会形式で事業を実施することで、若者の主体性の育成に繋がった。

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.18

**R3地方創生推進交付金 大河ドラマ「麒麟がくる」を契機にした「城下町」レガシープロジェクト事業**

事業名	やくの木と漆の館事業
担当課	地域振興部 夜久野支所
予算額	3,940千円

**1 事業の背景・目的**

福知山市夜久野地域は、古来日本でも有数の漆の産地であり、漆掻きは人々の暮らしを支えてきた生業であった。そんな夜久野の歴史を残し、伝えていくことを目的に「やくの木と漆の館」は設置され、丹波漆の伝統継承と漆産業の振興を目的に設立された「NPO法人丹波漆」と連携を図りながら、丹波漆を使った夜久野ならではの製品を作り、漆の絵付け体験、金継ぎ教室及び蒔絵教室を開催するなど、丹波漆の良さを伝える場や機会を提供する施設として運営している。

**2 事業の内容**

漆に関する資料展示、漆芸作家の作品を展示する企画展の開催、漆器の制作及び販売、漆塗り体験者への指導、金継ぎ教室及び蒔絵教室の開催など

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	需用費等	2,355,352	やくの木と漆の館運営事務経費	
	決算額計	2,355,352	交付金充当額	1,177,676

**4 事業の成果**  
丹波漆の伝承と、漆塗りや漆の絵付けなど様々な漆芸が学べる体験型施設として運営するとともに、漆器の制作販売や、漆芸作家作品等の展示、各種資料展示、体験教室などを通じて地域文化の振興を図った。

**5 課題**  
道の駅「農匠の郷やくの」の運営が不安定となっていることで、関連した集客が得られなくなっている。休館となっている施設の早期の活用と道の駅の活性化に向け、他の施設と連携を図ることで、相乗効果による施設利用者増を目指す必要がある。

**6 R4年度以降の  
予定**  
引き続き丹波漆の伝承館として、新たな商品開発や夜久野産丹波漆を使用した漆器等により丹波漆の情報を発信し、入館者数、売上げの増加を目指す。また、道の駅「農匠の郷やくの」の特徴ある施設として他の施設や団体と協働し、夜久野エリア全体の集客増を図るとともに、販路開拓に努める。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	入館者数	人	1,364/1,500	1,012/1,500	855/1,500
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	蒔絵・金継ぎ教室開催	日	30/33	38/33	28/33

**担当課による評価**  
C(効果があった)

**評価をつけた理由**  
①入館者数855人(前年度1,012人)、②通常体験者数836人(前年度981人)、③売上額1,934千円(前年度2,555千円)  
①②については、前年度より利用者が減少しておりコロナ禍で教室の中止や人数制限による影響が出たものである。また、③についても前年度より減額しているが、自宅で出来る金継ぎセットをHPや委託販売などで積極的にPRしており、一定成果を上げていることは評価できる。

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.19

**R3地方創生推進交付金 大河ドラマ「麒麟がくる」を契機にした「城下町」レガシープロジェクト事業**

事業名	和紙伝承館管理事業				
担当課	地域振興部 大江支所				
予算額	1,960千円				
<b>1 事業の背景・目的</b>					
<p>福知山市大江地域は、古くから地場産業として和紙づくりが行われ、府内の代表的な和紙生産地であった。伝統地場産業として、また、貴重な文化として育まれてきた「丹後手すき和紙」の歴史や生産技術等を展示公開し、あわせ地域文化伝承として手すき和紙製作体験の場を提供する施設として運営する。</p>					
<b>2 事業の内容</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後手すき和紙の歴史や生産技術等の展示公開を行う。</li> <li>・市域小中児童生徒を対象に地域文化の伝承として手すき和紙製作体験を行う。 (コロナ感染症拡大防止のため、一般の体験は休止する。)</li> <li>・地域資源を活用し、観光入込客の受け入れを行う。(展示公開による。)</li> </ul>					
<b>3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)</b>	費目	金額	概要		
	職員手当	645,200	和紙伝承館管理事業費臨時職員賃金等		
	委託料	283,800	手すき和紙体験業務委託料等		
	決算額計	929,000	交付金充当額	464,500	
<b>4 事業の成果</b>	<p>入館者数302人・手すき和紙製作体験者数61人・施設開館日(土日・祝日)91日間 伝統的な手すき和紙を広く伝えるため、和紙関連作品の企画展示会を年3回開催する。 また、コロナ感染症拡大防止のため地域文化伝承を担う手すき和紙製作体験については、一般の体験を休止し、地域文化伝承のため市域小中児童生徒に限り実施する。</p>				
<b>5 課題</b>	<p>R3は、ウイズコロナの対応として手すき和紙製作体験の代わりに密とならない一人でも体験出来る手すき和紙を活用したうちわづくりを実施した。引き続き、文化伝承のため、施設利用促進につながる取組みが必要である。</p>				
<b>6 R3年度以降の 予定</b>	<p>丹後手すき和紙の生産技術等の展示公開、手すき和紙製作体験や手すき和紙を活用したうちわづくり等の実施により、和紙文化の伝承を図るとともに、地域資源の活用により地域振興を進める。</p>				
<b>成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標</b>	指標	単位	R1	R2	R3
	施設利用者数	人	741/1,200	371/1,200	302/1,200
<b>活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込</b>	指標	単位	R1	R2	R3
	開館日数	日	126/131	109/116	91/117
<b>担当課による評価</b>	C(効果があった)				
<b>評価をつけた理由</b>	<p>事業の目標値を1,200人としているが、コロナウイルスの影響により入館者数302人(R1年度741人)、体験者数61人(R1年度305人)とコロナ前より減少しており目標値には至らないが、市内小中児童生徒(38人)の手すき和紙体験実施により和紙文化伝承の効果があったと評価する。</p>				

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.20

R3地方創生推進交付金 北部地域連携都市圏ものづくり産業都市創造プロジェクト					
事業名	稼げる農業応援事業				
担当課	産業政策部 農林業振興課				
予算額	8,755千円				
1 事業の背景・目的					
<p>自らが「稼ぐ」ことに取り組み、将来展望を切り開こうとする意欲ある農業者等を支援することで、農業競争力の強化を図る。</p>					
2 事業の内容					
<p>ふくちやまのエエもん発掘事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「これぞ福知山」といえる郷土色豊かな農産品や加工品を「ふくちやまのエエもん」として認定し、商品のブラッシュアップ支援や、商談会等への出展支援を実施する。</li> </ul>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	報償費等	6,586,834	稼げる農業応援事業費謝礼等		
	決算額計	6,586,834	交付金充当額	3,293,417	
4 事業の成果	<p>新たに福知山ならではのといえる5品を「ふくちやまのエエもん」に認定し、累計で22品目となった。 大阪にて「ふくちやまのエエもん」を素材に使用したコース料理の食事会を開催し、ホテルの料理長や料理雑誌編集者等に認定品のPRを実施した。</p>				
5 課題	<p>福知山ならではの逸品を高い価格で販売し生産者の所得向上につなげる目的に対して、所得向上に対する意欲が低い生産者もあり、生産量を増やして販路拡大につなげるまでに至っていない。</p>				
6 R4年度以降の 予定	<p>料理人の方に生産現場を案内し、福知山の風土に根付いた「ふくちやまのエエもん」の魅力を料理人に認識してもらい、ホテルなどへの販路拡大を目指す</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	農業所得が対前年度比5%UPした認定者	人	0/11	0/17	3/17
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	エエもん認定品	品	7/3	6/6	5/5
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	<p>クラウドファンディングを活用して商品開発を行うなど販路拡大等に意欲的な事業者の商品が新たに「ふくちやまのエエもん」となった。これにより既存の認定品への刺激となることが期待できる。また、エエもんを活用した食事会について料理雑誌に掲載することで全国の多くの料理人に「ふくちやまのエエもん」をPRすることができた。</p>				

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.21

R2地方創生推進交付金 北部地域連携都市圏ものづくり産業都市創造プロジェクト					
事業名	「知の拠点」推進事業 (3)				
担当課	市長公室 大学政策課				
予算額	437,346千円				
<b>1 事業の背景・目的</b>					
<p>北近畿地域においては、少子高齢化や人口減少が進み、若者の都市部への流出や労働力不足、都市の過疎化、地域経済の衰退、自治機能の低下など、共通する地域課題が顕著となっている。</p> <p>少子高齢化に伴う労働力不足や過疎化に対して、地域経営学部及び情報学部の2学部体制の福知山公立大学における文理連携により北近畿での「知の拠点」として取り組みを進め、ICTやAI等の情報技術や地域経営学の知見を活用・連携した地域への貢献を図ることを目的としている。</p>					
<b>2 事業の内容</b>					
<p>小中学生を対象としたプログラミング教室の実施や、公開講座等の講義をデジタルアーカイブ化し、オンラインで配信するシステムを構築し市民の学習意欲の向上を図る。</p> <p>また、産学官連携コーディネータを雇用し、企業や行政と大学をつなぐ連携の構築を図る。</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位:円)	費目	金額	概要		
	負担金補助及び交付金	2,830,000	「知の拠点」推進事業報酬等		
	決算額計	2,830,000	交付金充当額	1,415,000	
4 事業の成果	小中学生を対象としたプログラミング教室を4コース開催し、合計35名が参加した。また、映像メディアコンテンツの制作に関わるスタジオ機材を中心に整備し、アーカイブコンテンツの制作を行った。				
5 課題	福知山市だけでなく北近畿地域の情報人材の育成。				
6 R4年度以降の 予定	小中学生を対象としたプログラミング教室への市外からの受入れ。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	福知山公立大学の社会人向け講座受講者数	人	1,253/400	607/500	1,191/500
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	地域と大学の連携取組数(包括協定締結数)	件	15/10	15/10	15/10
担当課による評価	A(非常に効果があった)				
評価をつけた理由	地域との連携強化、情報学部による小中学生向けプログラム教室等の地域に根ざした様々な取組みにより地域課題解決に貢献した。				

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.22

**R3推進交付金「子育て、子育てにやさしい」京都創生プロジェクト事業**

事業名	NEXTふくちやま産業創造事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	10,295千円				
<b>1 事業の背景・目的</b>					
<p>コロナ禍による社会価値の変化を踏まえ、ニーズの変化に対応した新たな価値創造が必要となる中、この担い手となる新たな企業等の創出に取り組む。</p> <p>その過程で、地域内外の人や企業が繋がる「地域間ネットワーク」の構築と先進的企業の誕生、連携、集積という循環を地域主体が自律的に回す「地域エコシステム」を生み出し、先進的企業をはじめとする多様な産業を福知山に集積させ、雇用の創出や雇用水準を高め、定住人口や交流人口、UIJターン人口の増加をめざす。</p>					
<b>2 事業の内容</b>					
<p>○機運醸成イベント「NEXT産業創造塾」開催 地域の「起業に挑戦する風土」を構築するため、先進地の講師を招聘し、先進事例に触れる機会を創出する。また、広く起業への機運醸成を図るとともに、地域間のネットワーク構築にも繋げる。NEXT産業創造プログラムの周知も図るため、年二回程度開催する。</p> <p>○起業家等人材育成プログラム「NEXT産業創造プログラム」開催 起業や企業内起業等をめざす人を対象に、起業に必要とされる高度な知識やスキルを修得できるよう本プログラムを実施、社会人の学び直しを推進する。本プログラムを通じて先進的な企業や起業家との交流を生み出すことで、新たな産業の創出に繋げる。</p> <p>&lt;めざす人物像&gt;アントレプレナー・イントレプレナー等 &lt;カリキュラム&gt;基礎科目、事例研究型科目、PBL型科目 &lt;開催時期&gt;8月上旬～2月上旬（年度末にピッチイベント開催）&lt;募集定員&gt;15名程度</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	委託料	9,801,220	委託料		
	決算額計	9,801,220	交付金充当額	4,900,610	
4 事業の成果	<p>・令和3年度NEXT産業創造プログラムでは、募集定員15名程度のところ、北近畿地域をはじめ遠くは東京都より22名の方々からの応募があり、最終ステップまで進まれた修了者20名が9つの新規事業を創出された。</p> <p>・クラウドファンディングを活用しテストマーケティングを実施した受講者は、316名（うち市外応援者8割）から総額約250万円の資金調達を達成された。</p>				
5 課題	<p>今後は、NEXT産業創造プログラムだけでなく、新たな産業や企業の誕生、集積という目的を達成するためには、産業振興のグランドビジョンを産官学と広く共有し、連携していくことが必要不可欠である。</p>				
6 R4年度以降の 予定	<p>令和4年度からは、産官学から構成される「NEXTふくちやま産業創造事業ネットワーク会議」を設置し、本事業の運営方針等に対する参考意見を産学の有識者から頂戴する場を設ける。本会議において、今後の本地域における産業振興ビジョンについて協議し、共有する。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	起業数・事業提携数・企業内起業数	件	—	—	21/0
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	プログラム参加者	人	—	—	22/15
担当課による評価	A(非常に効果があった)				
評価をつけた理由	<p>イノベーションを創出する起業家輩出の障壁として、2017年度の中小企業白書からは、「経営知識の不足」「資金方法がわからない」「事業構築経験がない」などがあげられている。NEXT産業創造プログラムでは、それら起業を阻む壁に対して、処方箋となるよう3つのステップから構成されるカリキュラムを提供している。本プログラムからは、クラウドファンディングを活用したりリアルな資金調達や本地域を中心とした人や企業との繋がりが創出されている。</p>				

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.23

**地方創生道整備推進交付金 「北近畿の拠点“福知山”ネットワークを強化する道作り計画 ～広域連携の強化小さな拠点を結ぶ地域連携の強化～」**

事業名	地域間交流促進ネットワーク事業（市道）				
担当課	建設交通部 道路河川課				
予算額	137,900千円				
<b>1 事業の背景・目的</b>					
市道、林道の一体的な整備により、市内の道路網を整備し、交通の利便性、地域間交流の促進、交流ネットワークの強化を通じて、災害時における避難経路の確保、安全・安心な道路環境、観光入込客数の増加を図る。					
<b>2 事業の内容</b>					
広域的な道路網の整備とこれに接続する幹線道路の改良を行い危機対応の強化を図る。 (市道10路線、9,755m)					
<b>3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)</b>	費目	金額	概要		
	委託料	22,251,900	笹場小野線用地測量業務		
	工事請負費	73,376,000	岡ノ木線道路改良工事、広小路勅使線道路舗装改良工事		
	決算額計	95,627,900	交付金充当額	47,813,950	
<b>4 事業の成果</b>	地域間を結ぶ幹線的な道路など優先度の高い路線を整備し、地域間の連携強化を行いネットワークの強化、災害時における避難経路の確保を行い安心・安全な道路環境を整えることができた。しかし、コロナ過によるイベントの中止等により、観光入込客数が減り、年度計画を達成できなかった。				
<b>5 課題</b>	用地買収を伴う事業や、他事業と連携を図り進める事業においては、相手方との交渉や調整に困難を伴い工程に遅れが生じる。				
<b>6 R4年度以降の 予定</b>	引き続き、他路線の整備を進めることで、一層の誘客効果を図る。				
<b>成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標</b>	指標	単位	R1	R2	R3
	工事完成路線	路線	2/8	0/8	1/4
<b>活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込</b>	指標	単位	R1	R2	R3
	事業実施路線	路線	4/4	3/1	4/4
<b>担当課による評価</b>	C(効果があった)				
<b>評価をつけた理由</b>	令和3年度は、工事完成路線が1路線で、事業実施路線は増加した。観光入込客数は達成できなかった。				

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.24

**地方創生道整備推進交付金 「北近畿の拠点“福知山”ネットワークを強化する道作り計画 ～広域連携の強化小さな拠点を結ぶ地域連携の強化～」**

事業名	地域間交流促進ネットワーク事業（林道）
担当課	産業政策部 農林業振興課
予算額	20,000千円

**1 事業の背景・目的**

市道、林道の一体的な整備により、市内の道路網の整備をし、交通の利便性、地域間交流の促進、交流ネットワークの強化を通じて、災害時における避難経路の確保をし、安全・安心な道路環境、観光入込客数の増加を図る。

**2 事業の内容**

広域的な道路網の整備とこれに接続する幹線道路の改良を行い危機対応の強化を図る。  
(林道1路線、48m)

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	工事請負費	20,048,600	林道大江山線法面改良に係る工事請負費	
	決算額計	20,048,600	交付金充当額	10,000,000

**4 事業の成果**

地域間を結ぶ幹線的な道路など優先度の高い路線を整備し、地域間の連携強化を行いネットワークの強化、災害時における避難経路の確保を行い安心・安全な道路環境を整えることができた。しかし、コロナ過によるイベントの中止等により、観光入込客数が減り、年度計画を達成できなかった。

**5 課題**

用地買収を伴う事業や、他事業と連携を図り進める事業においては、相手方との交渉や調整に困難を伴い工程に遅れが生じる。

**6 R4年度以降の予定**

引き続き、他路線の整備を進めることで、一層の誘客効果を図る。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
		丹州材の出荷量	m <sup>3</sup>	3,430/9,300	2,125/10,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
		事業実施延長（大江山線）	m	27/18	62/51

**担当課による評価**

C(効果があった)

**評価をつけた理由**

令和3年度は、工事完成路線はなかったものの、事業実施路線は増加した。観光入込客数は達成できなかった。



**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.25

「『知の拠点』整備構想」産学官連携拠点整備計画【R1～R3】					
事業名	「知の拠点」推進事業				
担当課	市長公室 大学政策課				
予算額	437,346千円				
<b>1 事業の背景・目的</b>					
<p>地域を担う高度情報人材を育成するとともに、地域企業や行政機関との共同研究を通じて北近畿地域の産業界への情報技術の導入、社会実装をすすめ、地域の生産性を高めるプロジェクトを推進することで、若者の定着や地域が求める人材の育成、産業イノベーションの創出、更には様々な産業分野において先端情報技術の活用を通じた生産性の向上や雇用を生み出し、北近畿地域全体の活性化に繋げる。</p>					
<b>2 事業の内容</b>					
<p>福知山公立大学3号館を改修し、地域企業や行政機関との共同研究機能、情報人材育成に向けた地域住民、社会人、企業職員等を対象とする情報学に関するリカレント教育機能、京都工芸繊維大学との国立・公立の文理連携を含めた産学官連携機能を備える情報教育研究拠点施設として整備する。</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	決算額計	0	交付金充当額	0	
<b>4 事業の成果</b>	<p>整備した施設において、福知山公立大学が持つ情報技術等を活用したプロジェクトを実施し、地域の情報化教育の推進に貢献した。</p>				
<b>5 課題</b>	<p>産学官連携を推進するための専門人材の確保。</p>				
<b>6 R4年度以降の 予定</b>	<p>福知山公立大学を核とした北近畿地域における産学官連携を推進するためのプラットフォームを設立する。また、福知山公立大学における地域との共同研究や人材育成のパイロットプロジェクトを実施する。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	福知山公立大学の社会人向け講座受講者数		1,253/400	607/500	1,191/500
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	地域と大学の連携取組数(包括協定締結数)		15/10	15/10	15/10
担当課による評価	A(非常に効果があった)				
評価をつけた理由	<p>情報学部の施設整備を行ったことで、大学が持つICTやAI等の情報技術を活用し、小中学生を対象としたプログラミング教室をはじめとしたリカレント教育や、企業との共同研究、行政からの受託事業等を行った。</p>				

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.26

企業版ふるさと納税「働いてみたい福知山長田野工業団地PR事業 ～企業誘致、環境対策に向けて～」

事業名	長田野工業団地内緩衝緑地帯再整備等事業
担当課	市長公室 秘書広報課
予算額	17,476千円

**1 事業の背景・目的**

長田野工業団地地利活用増進計画に基づき、樹木伐採を計画的に進め、企業の操業環境を確保及び市民が工業団地内の散策を安心安全に行えることを目的とする。

**2 事業の内容**

長田野工業団地緩衝緑地等の樹木伐採及び処分

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	決算額計	0	交付金充当額	0

**4 事業の成果**

長田野工業団地地利活用増進計画により、長田野工業団地内企業と協議を行うことによって、良好な計画で進捗している。企業の操業環境の整備が順次実施できている。

**5 課題**

緩衝緑地の目的を損なわず、なおかつ企業操業の環境を適宜改善していく。

**6 R4年度以降の予定**

緩衝緑地の目的を損なわず、なおかつ企業操業の環境を適宜改善していく。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	R1	R2	R3
	伐採延長	m	1,300/1,030	1,170/1,030	1,500/1,030
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	R1	R2	R3
	伐採件数	件	7/6	6/6	14/6

**担当課による評価**

A(非常に効果があった)

**評価をつけた理由**

企業の操業環境を確保及び市民が工業団地内の散策を安心安全に行える環境整備ができた。

**資料①令和3年度地方創生関係交付金対象事業検証シート**

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

地方創生関係交付金R3実施事業の検証シート

NO.27

企業版ふるさと納税「働いてみたい福知山長田野工業団地PR事業 ～企業誘致、環境対策に向けて～」

事業名	化学消防車両購入事業
担当課	市長公室 秘書広報課
予算額	—

**1 事業の背景・目的**

長田野工業団地立地企業の危険物火災等に対応できる化学消防ポンプ自動車の導入により、防火・防災に対する安全対策を講じ、就労環境の改善を図る。

**2 事業の内容**

消防本部の消防車両を更新整備する。  
・化学消防ポンプ自動車1台を更新整備した。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	決算額計	0	交付金充当額	0

**4 事業の成果**

・化学消防ポンプ自動車1台を更新整備し、長田野工業団地立地企業等の防火・防災環境を整備することができた。

**5 課題**

市民の生命・財産を守るため、消防活動の機動力となる消防車両の更新整備を行い、初年度登録から20年未満の車両割合を高める必要がある。

**6 R3年度以降の予定**

集中整備計画に基づき効率的な車両更新を行うとともに、国庫補助金などの財源確保を図る。更新により廃車した消防車両のインターネットオークションによる売却を継続し、財源確保に努める。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2

**担当課による評価**

A(非常に効果があった)

**評価をつけた理由**

約40社が立地する長田野工場団地をはじめとする市内の危険物火災への対応基盤が整備できたため。  
(事業は令和元年度に化学消防車両購入により完了しているため、令和2年度以降の事業費は0円です)